

豊市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	生涯学習メニューの充実事業							
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	生涯学習係	評価票作成者	補佐兼生涯学習担当係長 服部英俊
1-3 総合計画における施策の体系	①節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			③基本施策	生涯学習の推進	コード	4-1-1
					④単位施策(中)	生涯学習の充実	コード	4-1-1-2
	②項	生涯学習の推進			⑤単位施策(小)	生涯学習メニューの充実	コード	4-1-1-2-1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	生涯学習活動に関心とニーズを持つ市民	意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	市民の関心の高い分野の生涯学習機会を提供するため、市民の声を幅広く収集・把握し、ニーズに応じた講座を提供する。				
1-5 事務事業の内容	市民のニーズに応じた講座を提供し、各種講座の講師として活躍できる市民（市民講師）の発掘と育成を進め、生涯学習サークルなどと連携した市民の自主運営による講座や発表会の拡大を支援する。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
	平成18年度	講座終了時にアンケートを取り、市民の声の収集に努めた。市民講師等の登録者をホームページに掲載しPRに努めた。	市民の関心の高い分野の生涯学習機会を提供する。	市民意識調査での市民の生涯学習への関心の高さがうかがえ、多様な生涯学習機会が望まれる。
平成19年度	講座の種類を増やし、受講生数の増加を図った。	生涯学習社会のなかにおいて、学びたいことと、学んで欲しいことを併せて市民に提供する。	子育て中の市民の子育てに関する意欲は大きなものがあり、更なる講座の充実が必要である。	
平成20年度	講座受講者のニーズに対応し、講座の種類を検討した。	〃	地球温暖化問題などの環境に関心が高まりつつあり、公民館講座を通じて環境問題の提供が図れた。	
平成21年度	〃	〃	子育て中の市民が、託児付き講座の増加を望んでいる。	
平成22年度	市民講師公募型講座を検討し、講師を公募したことにより、新たな人材の発掘を図ることができた。			
平成23年度	市民講師公募型講座により、市民ニーズに応じた講座を開催することができた。			
平成24年度	市民講師公募型講座に加え、市民主導型講座 とよあけ市民大学「ひまわり」を開設し、市民ニーズに応じた講座を増やすきっかけをつくった。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	生涯学習課の講座・教室の受講者数(人)			930(人)	1,020(人)	市民が望む講座のメニューを充実させることにより、18年度の講座・教室の受講者数を基礎とし、5年間で1ポイント高め、2015年までには合計2ポイント程度高めることを努力目標として設定した。				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績a(単位)	18(メニュー)	29(メニュー)	27(メニュー)	33(メニュー)	27(メニュー)	32(メニュー)	31(メニュー)			
	直接事業費b(千円)	1,897	2,122	1,867	1,704	1,832	1,933	1,621			
	人件費c(千円)	5,515	5,492	5,299	5,165	5,012	4,910	4,782			
	合計コストd(b+c)(千円)	7,412	7,614	7,166	6,869	6,844	6,843	6,403			
	単位コストd/a(千円)	1メニュー当たり411	1メニュー当たり263	1メニュー当たり265	1メニュー当たり208	1メニュー当たり253	1メニュー当たり214	1メニュー当たり206	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 直接事業費は、公民館講座開催の講師謝礼851,000円及び陶芸教室開催委託料770,000円の経費である。人件費は、係担当の年度内の関わり（事務分担表と実績）から0.8人として24年度は算出した。
※マニュアルによる平均人件費年単価5,978千円

2-4 成果指標に 対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値 に対する達成度(%)	848	1,001	979	705	733	818	910		
		83.1	98.1	96.0	69.1	71.9	80.2	89.2			

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価	A	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準 ①必要性(必要な事務事業であるか)
 ②公共性(公が実施する意味があるか)
 ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	市民の学習意欲に主眼を置き、生涯学習機会の提供を行う。	市民の声を幅広く収集・把握し、ニーズに応じた生涯学習機会の提供を図れる。	生涯学習サークルを講師とした講座の開催、市民講師等の名簿をホームページに掲載し、生涯学習機会の提供を図れた。
平成19年度	限られた予算の中で、講座メニューを充実するために、応分の受益者負担の検討を要する。	講師料を減額し、開設講座回数を増やすことにより、講座メニューの充実を図る。	講座メニューを充実するとともに、サークルの組織化を計った。	
平成20年度	限られた予算の中で、講座メニューの充実よう検討を要する。	新しい講師を発掘し、講座メニューの充実を図る。	生涯学習サークルを講師とした講座が定着しつつあり、公民館サークルの充実を図った。	
平成21年度	〃	市民が主催する講座メニューの充実を図る。	公民館講座受講生のサークル化に努め、サークル会員の増員やサークル化を図った。	
平成22年度	市民主導型講座を進めるきっかけとして、市民から公民館講座の講師を募集する。			
平成23年度	市民主導型講座を進めるきっかけとして、市民から公民館講座の講師を募集する。			
平成24年度	市民主導型講座 とよあけ市民大学「ひまわり」を開講し、市民講師を発掘し、市民ニーズに合った講座を増やす。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果	結果		審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度	A	継続して事業を進めること。	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			